令和７年度　江戸川区立清新第一中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・自ら学び進んで働く生徒 ・心身ともに健康な生徒 ・自他を尊重して協調性を発揮する生徒 ・社会に対する責任を自覚して実践する生徒		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	学校像：「皆が幸せを感じながら、共に成長できる学校」 生徒像：・主体的に学び、自分目標に向かって努力する生徒・思いやりの心と健康な身体をもった生徒 ・互いに協力し合い、豊かな人間関係が築ける生徒・当たり前のことが当たり前にできる生徒 教師像：・生徒、保護者、地域社会、同僚と喜びや幸せを共有することができる教師 ・使命感を持ち、心霊される言動、行動と組織的な対応ができる教師 ・主体的に研修と日々の実践を行い、学び続けることができる教員
前年度までの本校の現状	成果	＜成果＞　①全教員がＩＣＴ活用による授業実践を行い、改善を進められた。 ②インクルーシブ教育として行事や授業等で交流を行えた。	課題	＜課題＞　①ICT機器を活用した授業の工夫 ②不登校生徒に対する対策 ③働き方改革の推進

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	**＜学力の向上＞ ・学力の定着・向上を図る指導の展開**	・放課後学習教室の参加率を上げ、学力定着を図る ・ＴＧＧの活用やALTと連携した英語力の向上	・放課後学習教室の参加率９０％ ・保護者・生徒のアンケートの肯定的な評価が８５％	80%	85%	B	前期の放課後学習の参加率は７０％をこえた。後期はさらに出席率を上げる。	B	放課後学習教室について参加率を上げることに加え、本当に参加させたい生徒が参加できているのかが気になる。	B	後期の参加申し込みの生徒が多く、参加率も上がった。	A	学校だよりやHPで充実した取組がなされていることが和kる。放課後学習の参加率の向上を期待する。	・募集する対象を検討し、申込者数を増やす。
	＜教員研修の充実＞ ・教員の授業実践に向けた研修 ・ＩＣＴ機器の活用の促進	・全教員が他教員の授業を年2回以上観察 ・校内研修を充実させ、ＩＣＴ機器を使用し、効率のよい授業	・生徒アンケートの肯定的な評価が８０％	70%	80%	B	校内研修でICT機器の活用について研修を行った。まだ他の授業を見られていない教員がいる。	A	ICT機器を活用して生徒たちのより良い学びにつなげてほしい。	B	校内研修を含めた教員の授業観察を２回以上行えた。ICT機器の活用は全教員が活用できた。	B	ICT機器の活用が積極的に行われていると思うが、指導内容に応じた使い分けをさらに研究していただきたい。	・授業研究の活性化と充実を図る
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・学校図書館の活用の推進	・学校図書室を活用し、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法を指導 ・年３回は学校図書館を活用し、調べ学習等を行う	・生徒アンケートの肯定的な評価が９０％	50%	70%	C	まだ図書室の活用回数は少ない。今後探求学習での図書室活用をさらに推進する。	B	学校図書館がいつでも使用したいときに使用できるとよい。	B	学校図書館の活用を行っているが、回数は多くない。	B	読書科を発展させ、真の探究的な学習として充実することを期待する。	学校図書館の活用回数が少ないので、図書館の活用を推進していく。
体力向上	**＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・体育の授業での補強運動や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上**	・毎時の保健体育の授業での補強運動を単元により工夫し行う	生徒アンケートの肯定的な評価が80%	80%	90%	B	毎時間、授業の始めに補強運動を行い、体力向上を図っている。	A	これからも日頃から生徒たちの体力の向上に向けての取組を進めてほしい。	A	単元により、効果的な補強運動を行った。	B	アセスメントを実施し、内容の見直しが必要かと思う。	・単元に最適な補強運動の工夫
		・運動会、ロードレース大会への取組を通して持久力や意欲の向上を図る	生徒アンケートの肯定的な評価が80%	70%	90%	B	運動会へ向けての取組の中で体力向上を図れた。	A	運動会では今までの取組の成果が見られた。ロードレース大会でも普段の取組の成果が見られるとよい。	A	運動会やロードレース大会の取組を計画的に行い、体力向上を図れた。	A	ロードレース大会は立地にふさわしい取組なので継続してほしい。	・さらに意欲的に取り組めるよう計画を改善する。
共生社会の実現に向けた教育の推進	**＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実**	・週１回の特別支援委員会と月１回の校内委員会での情報共有と手立ての確認 ・エンカレッジルーム活用の推進と充実	・保護者アンケートの肯定的な評価が70%	80%	80%	B	委員会を通して情報共有を行えている。 エンカレッジルームの活用率が上がってきているので、さらに居場所つくりを進めていく。	B	生徒たちの居場所つくりを進めて、一人でも多くの生徒が学校に登校できるように推進を。	B	月1回の校内委員会で情報共有をし生徒の居場所づくりの拡充を進めている。 エンカレッジルームへ登校する生徒が増えてきている。	A	情報の共有きちんと行い、組織的に知恵を出し合い、個々の生徒のニーズに応える指導をお願いします。	・エンカレッジルーム運用について改善を図っていく。
	＜インクルーシブ教育の推進＞ ・特別支援教育の理解啓発と授業における工夫 ・交流及び共同学習の実施・充実	・交流する場面（給食や行事など）の充実 ・福祉体験の実施	・交流給食　年間10回 ・交流授業、行事年間20回	80%	90%	A	体育の授業や校外学習での取り組み、運動会期間中にて交流給食を行った。	A	形式や表面的な対応だけでなく、真の多様性の理解と受容につなげてほしい。	A	交流給食や交流授業行うことができた、	A	年々充実してきていると受け止めている。 ボランティア活動の一層の推進を期待する。	次年度も交流場面を増やし、いんクルーシブル教育を推進していく。
不登校・いじめ対応の充実	**＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化**	・生活指導部会や校内委員会での情報共有と手立ての確認 ・居場所づくりの拡充と推進、公的機関との連携 ・校内別室指導支援員の活用	・不登校生徒を１０％減らす	90%	90%	A	昨年度より１０％以上減っている。登校できなかった生徒でエンカレッジルームを利用する生徒が増えた。	B	一人でも多く登校できるように取り組んでほしい。公的機関だけではなく様々な機関と協力できるとよい。	B	「居場所つくり」を推進を行い、エンカレッジルームに登校で来る生徒が増えてきている。	A	人的配置の充実もあり、充実した取組が行われていると思います。 不登校の減少を期待する。	・校内委員会やいじめ防止委員会での取り組みの見直し。
	＜健全育成に向けた取組の強化＞ ・いじめの未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・スクールカウンセラー等や生活指導連絡協議会の活用	・「ＳＮＳ家庭ルール」等の徹底 ・ＳＣやＳＳＷなどによる面談の充実	・生徒アンケート等でいじめを認知した場合、１ケ月以内の解決を目指す	80%	80%	B	生徒アンケートを６月に行った。１年生がSCと全員面接を行い、相談しやすい体制を推進している。	B	生徒たちのちょっとした変化や声を逃さず、生徒に寄り添った指導を続けてほしい。	B	・生活指導部と中心にいじめにたいして早期対応を図ることができた。 ・セーフティ教室等を活用し情報モラル指導を行っている。	B	SNSの利用についての啓発な指導をさらに工夫して行ってほしい。	・校内委員会やいじめ防止委員会での取り組みの見直しを図る。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	**＜自校の取組の積極的な発信＞ ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実**	・毎日1回以上内容の更新 ・行事等の発信	・保護者アンケートの肯定的な評価が８０％	80%	85%	B	ホームページの更新をは３日に一度程度である。 行事についての発信は随時行うことが出来ている。	A	今後もホームページを活用して情報発信してください。	B	・中間同様に毎日の更新が出来ていない。	B	掲載する記事について見る側が見たくなるような見せ方の工夫をお願いします。	・毎日更新し、情報の発信をしていく。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・生徒・保護者アンケート、教職員アンケート、学校関係者評価の分析、工夫・改善	・学校関係者評価のAが８０％	90%	90%	A	９月にアンケートをおこなった。	A	アンケートを分析評価し、これからにつなげてほしい。	A	・生徒・保護者アンケート、学校関係者評価の項目を改善した。	A	評価項目・内容について絶えず見直しをしながら教育課程の改善・充実に活かしてください。	・さらに改善を図り、さらにわかりやすく、評価してもらえるよう工夫・改善をする。
特色ある教育の展開	**＜やりとり帳の活用＞ ・生徒の生活を見守り、相談を受ける体制の充実**	・毎日、担任がやりとり帳を活用し生徒とコミュニケーションを図る	・全クラスで実施（１００％）	100%	100%	A	全クラスで実施している、	A	書くことが義務化されないようにし、生徒とコミュニケーションを普段からとり、相談のしやすい雰囲気を作ってほしい。	A	・全教員が実施できている。次年度も生徒とのやりとりを行い健全育成に活かす。	A	毎日の生徒とのやりとりは大変かと思いますが、一言でも声をかけることが大切です。継続をお願いします。	・やりとり帳とL-Gateを活用し、さらに見守り体制を充実させる。
	＜学校における働き方改革＞ ・ライフ・ワーク・バランスの推進	・月1回の定時退勤日の徹底 ・定時退勤weekの推進 ・部活動の方針やガイドラインに沿った活動時間・休養日の設定	・１日の在校時間１１時間を目指す ・月の定時外在校時間60時間以下を目指す	60%	70%	C	定時退勤日・weekを設定し取り組んでいる。４月より徐々に比べ徐々に定時外在校時間が減少してきている。	B	働きすぎにならないよう、学校としての取組を今後も行ってください。	B	・定時退勤日についての意識は高まっているが、さらに意識改革が必要である。	A	教員一人ひとりの意識の改善を啓発してください。	・仕事の効率化、会議の持ち方の見直し